

# 林業技術センターの組織体制が変わりました

## 1 試験研究機関の役割・体制の見直し

岩手県では、農林水産技術の開発・普及を担う試験研究機関の基本的な使命に立ち返って、その使命を果たすための役割や体制の見直しを、次の三つの基本的視点から進めています。

### ①果たすべき役割

- ・ 行政課題に対応する調査研究、新技術開発
- ・ 技術開発成果の実証試験、現地指導、技術研修
- ② 関係機関、団体、民間との役割分担
- ③ 役割を果たすための体制

## 2 林業技術センターに求められる役割

林業の試験研究は対象分野が幅広く、加えて、長期間を要するものが多くあります。

また、研究員数の減少により、課題の選択と集中を進めながらも、一

要する行政的要請に迅速、柔軟に対応できなくなっています。

一方、林業の技術開発についても、社会的・経済的な変化により、これまで以上に短期間での成果が求められるようになってきており、また、部門横断的な対応も必須になってきています。

さらには、研究員は技術普及も担当することとなり、試験研究と普及・研修の一層の連携強化が求められてきています。

## 3 林業技術センターの目指す組織体制

- ① 緊急的課題に迅速、柔軟に対応できる組織体制
- ② 普及と研究が一体となって技術普及のできる組織体制
- ③ 研究員の育成と研究の継承が円滑にできる組織体制

## 4 組織体制の見直し

当センターでは平成20年度から効率的・効果的な組織体制を目指し、次のとおり組織体制を見直しました。

### ① 研究部の統合

森林資源部と林産利用部との統合により、各研究員がお互いに担当業務を支援・補完できる体制とし、多様化する試験研究課題に柔軟に対応します。

### ② 普及・研修部門の統合

首席林業普及指導員が、新設された研修部の部長を兼務することにより部門の統合を図り、普及・研修の一体化とともに、研究部門との連携の円滑化を進めます。

### ③ 企画・総務部門の統合

企画部門と総務部門の統合により、林業試験研究の企画・調整及び予算編成等を一体的に進めます。

## 5 平成20年度の取組み

林業技術センターでは、県民の役に立てるよう、行政や関係機関・団体等の皆様方と一層密接な連携を図りながら、試験研究・技術開発とその普及・定着に着実に取組みます。

また、緊急性が高く多分野にわたる重要課題に対応するため、昨年度は、当センターとしては初の試みとして所内各部等横断の支援チームを結成し地域林業経営の担い手である「地域けん引型経営体」の支援に取組みましたが、本年度は、担い手支援に加えて、さらに、いくつかの課

題について同様の取組みを行うこととしております。

(岩手県林業技術センター)

